

# 賀川豊彦の著書「宇宙の目的」を英訳

徳島で幼少年期を過ごした社会運動家・賀川豊彦（1888～1960年）が探求を続けた「宇宙の目的」を考える講演会が、徳島市の徳島大日垂会館であった。賀川の著書「宇宙の目的」を英訳したプリンストン神学大のトマス・ジョン・ヘイスティングス博士が「宇宙意志に同化するところを熱望して」と題し、賀川が考えた宗教と科学の関係などを話した。要旨は次の通り。（撫養佳孝）

プリンストン神学大 ヘイスティングス博士講演

## 宇宙意志に同化する

### ここを熱望して

賀川豊彦は4歳の時、父学について強い関心を抱いた。科学と死別して神戸から徳島に帰った。旧吉野川流域の父の実家に引き取られ、豊かな自然に囲まれ、美を感ずる。15歳の時、米国人の宣教師からキリスト教の洗礼を受けた。そして自分の生きる根拠、近代日本の行く方、さらに宇宙の目的を模索しながら「宇宙意志に同化するところを熱望して」と題し、幅広い分野で絶大な貢献を果たした。

賀川は入信によって自分の命の根拠を発見し、自然は徳島で始まる。賀川はキリスト教伝道者であると同様に、なぜ自然界と自然科学を「科学的な神秘論者としての体験である」とし

# 進化論と創造論の調和に挑む

賀川は保守的な神学を学んだが、聖書の解釈は近代的だ。創世記を否定するわけではなく、科学の発見、進化論によって分かってきたこともある。問題はど

賀川が言う目的性論理である。科学的な神秘論者である賀川は、無批判に進化論を受け入れたのではない。独自の進化論の哲学と、それに伴う宇宙目的論を付け加えた。創世記を否定するわけではなく、科学の発見、進化論によって分かってきたこともある。問題はど



賀川豊彦の「宇宙の目的」について話すヘイスティングス博士

# 「科学的な神秘論」を探求

賀川が言う目的性論理である。科学的な神秘論者である賀川は、無批判に進化論を受け入れたのではない。独自の進化論の哲学と、それに伴う宇宙目的論を付け加えた。創世記を否定するわけではなく、科学の発見、進化論によって分かってきたこともある。問題はど